

令和5年度 姉妹都市交換学生事業報告書



横 須 賀 市
(運 営 NPO 法人横須賀国際交流協会)

目 次

1	姉妹都市交換学生事業の概要	1
2	姉妹都市の紹介	2
3	交換学生受け入れ事業	3
(1)	姉妹都市からの受け入れ学生	3
(2)	受け入れ日程	4
(3)	受け入れ行事	5
(4)	受け入れ学生の感想文	9
4	交換学生派遣事業	14
(1)	姉妹都市への派遣学生	14
(2)	研修・派遣日程	15
(3)	研修	16
(4)	派遣学生報告書	19

1 姉妹都市交換学生事業の概要

(1) 目的

本市の高校生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市やその国々との相互理解と友好関係を深めることを目的としています。

(2) 内容

毎年、7月から8月の約2週間の間、横須賀市は各姉妹都市に高校生を派遣し、また姉妹都市からも高校生を受け入れています。令和5年度は、フリマントル市（オーストラリア）を除く、コーパスクリスティ市（アメリカ）、プレスト市（フランス）、メッドウェイ市（イギリス）との間で高校生の相互派遣・受け入れを行いました。

派遣学生について

- ・横須賀市の親善大使として、横須賀や日本の文化・魅力を各姉妹都市に発信します。同時に姉妹都市の文化・魅力を学び、横須賀市民に伝えます。
- ・派遣前の研修では、英会話のレッスンだけでなく、日本の文化や横須賀の観光スポットを学ぶことで、姉妹都市で日本や横須賀を紹介するための知識・技能を習得します。また、現地での調査テーマを決めて、調査方法の検討などの準備を行います。
- ・姉妹都市からの受け入れ学生が横須賀に滞在している間、市内見学や日本文化体験などの受け入れ行事に案内役として参加します。
- ・派遣先では、ホームステイをしながら、市長表敬などの公式行事や現地の高校生との交流イベントなどに参加します。また、調査テーマについて、アンケートやインタビューを行い、帰国後に報告書としてまとめます。（本報告書のp.19～33参照）

受け入れ学生について

- ・市内の家庭でホームステイをし、自国の文化や姉妹都市の魅力を横須賀市民に伝えます。
- ・ホームステイや受け入れ行事を通じて、横須賀や日本の文化や魅力を姉妹都市へ持ち帰ります。

(3) これまでの経過

昭和42年（1967年）にコーパスクリスティ市と高校生の相互交換を開始して以来、令和5年（2023年）までに358名の派遣、330名の受け入れを実施しました。

2 姉妹都市の紹介

イギリス・メッドウェイ市

提携：1998年8月26日

（旧ジリングラム市と1982年4月8日に提携）

人口：約280,000人 面積：192km²

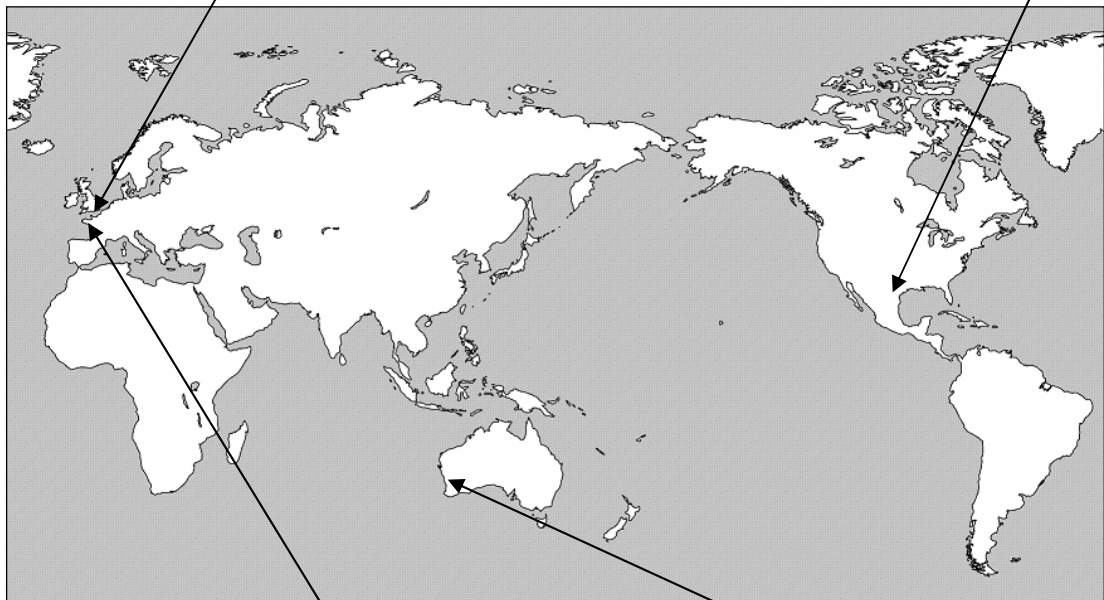
ロンドンの南東、メッドウェイ川下流に位置する産業・住宅都市。海軍造船の町として栄えたが、現在は、閉鎖された海軍施設跡に企業を誘致し発展。1998年4月1日、ジリングラム市とロチェスター市等が合併してメッドウェイ市となった。ジリングラム市は、航海術や造船技術をわが国に伝えた三浦按針（ウィリアム・アダムズ）の生誕地。

アメリカ・コーパスクリスティ市

提携：1962年10月18日

人口：約319,000人 面積：1,192km²

テキサス州のメキシコ湾沿岸にある港湾産業都市。石油、天然ガス、農産物、化学製品を産する。日本の貨物船もしばしば訪れる亜熱帯の避寒観光地。海軍航空訓練基地がある。ビーチリゾートとして知られるパドレ・アイランドの玄関口として、全米から避寒客、観光客が訪れている。テキサス州立水族館や空母レキシントン博物館がある。



フランス・ブレスト市

提携：1970年11月26日

人口：約140,000人 面積：50km²

ブルターニュ地方フィニステール県の主要都市。第2次世界大戦後、近代都市として復興した港湾産業都市。造船、情報処理産業、農業、漁業が盛んで、海軍基地や国立海洋科学研究所がある。横須賀製鉄所（造船所）の開設に貢献したフランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーが勤務していた海軍工廠がある。自転車レースで有名なパリ・ブレスト・パリの折り返し地点。

オーストラリア・フリマントル市

提携：1979年4月25日

人口：約32,000人 面積：19km²

パースの南西に位置する港湾都市。シドニー、アデレードに次ぐ港町。水産・羊毛加工品、家具などを産する。横須賀を母港とする南極観測船「しらせ」の補給港。西オーストラリア州で最初の刑務所であるフリマントル刑務所は、オーストラリア囚人遺跡群として2010年に世界遺産に登録された。

3 交換学生受け入れ事業

今年は姉妹都市から6名の高校生が横須賀市を訪れ、公式行事や受け入れ家庭との交流を楽しみ、友好を深めました。受け入れにあたっては、ホストファミリーだけでなく、横須賀から姉妹都市に派遣される高校生も案内役を務めました。

(1) 姉妹都市からの受け入れ学生

コーパスクリスティ市



エンジェル・ソリース
Angel SOLIS

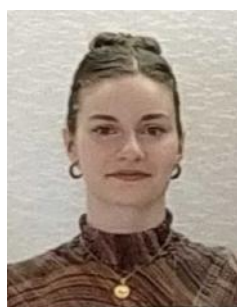
[受け入れ家庭]
山田ファミリー



ポール・ミックニフ
Paul MCNIFF

[受け入れ家庭]
鈴木ファミリー

ブレスト市



カプシーヌ・ブラン
Capucine BELIN

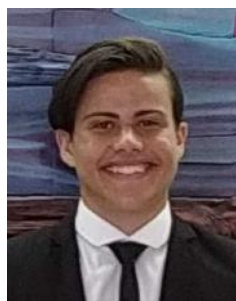
[受け入れ家庭]
國永ファミリー



クレマン・ヴィラン
Clément VILLAIN

[受け入れ家庭]
阿部ファミリー

メッドウェイ市



アレクサンダー・マリンネーロ
Alexander MARINHEIRO

[受け入れ家庭]
飯屋ファミリー



イザベル・ドウェン クロートン
Ysabelle DOWEN-CLOUGHTON

[受け入れ家庭]
金子ファミリー

(2) 受け入れ日程

月日・曜日			活動概要 (コーパスクリスティ市学生)
7	8	土	羽田着
	9	日	受け入れ家庭行事
	10	月	市立横須賀総合高等学校体験入学
	11	火	市立横須賀総合高等学校体験入学
	12	水	鎌倉見学
	13	木	市内観光(観音崎自然博物館 観音崎灯台 横須賀美術館 ソレイユの丘 記念艦三笠)
	14	金	市長、市議会正副議長表敬訪問、料理交流会、ヴェルニー公園ほか
	15	土	水師提督ペリー上陸記念式典出席
	16	日	受け入れ家庭行事
	17	月	受け入れ家庭行事
	18	火	日本文化体験(着物)、思い出動画作成プロジェクト
	19	水	上町散策、日本文化体験(書道・将棋)
	20	木	折り紙講習会、思い出動画作成プロジェクト
	21	金	羽田発

月日・曜日			活動概要 (プレスト市学生)	活動概要 (メッドウェイ市学生)
7	28	金	羽田着	
	29	土	受け入れ家庭行事	羽田着
	30	日	受け入れ家庭行事	
	31	月	日本語会話レッスン、日本文化体験(着物・三味線)	
8	1	火	料理交流会、スポーツ交流、コースカにて交流会	
	2	水	市内観光(横須賀市自然・人文博物館 観音崎灯台 横須賀美術館 ソレイユの丘 記念艦三笠)	
	3	木	市長表敬訪問、上町散策、日本文化体験(将棋・書道)	
	4	金	鎌倉見学	
	5	土	受け入れ家庭行事	
	6	日	受け入れ家庭行事	
	7	月	市議会正副議長表敬訪問、日本語会話レッスン、動画作成	
	8	火	国際ユースフォーラム出席	
	9	水	折り紙講習会、思い出動画作成プロジェクト	
	10	木	日本の遊び、ヴェルニー公園ほか	浄土寺、塚山公園、伊東市按針祭出席
	11	金	羽田発	受け入れ家庭行事
	12	土		羽田発

(3) 受け入れ行事

市長、市議会正副議長表敬訪問と市議会議場見学

市長と市議会の正副議長への表敬訪問をしました。市長からは名誉市民証を授与していただき、受け入れ学生たちは横須賀の印象や受け入れ家庭での様子などを話したり、市長や議長にたくさんの質問をしたりしていました。

また、市議会本会議場も見学し、議会制度の説明を受けました。自国の制度との違いの質問も絶えませんでした。



市立横須賀総合高等学校体験入学

2日間の体験入学をさせていただきました。剣道、お琴、茶道などのほか、歴史、数学、音楽など日本の学校の授業を初めて経験しました。母国とは異なる学校の体制に戸惑いましたが、日本の学生たちが親切にしてくれたおかげで、最後には「このままずっと通いたい!」とまで思うほど、日本の学校生活を楽しみ、思い出深い体験になったようです。



中央周辺（上町・ヴェルニー公園・どぶ板通り）散策

上町では商店街を中心に散策しました。祭り用品を扱う店では、法被が一枚の布から仕上げる工程を知り、色やデザインの多さに心を躍らせていました。楽器店では三味線の皮が犬の皮から出来ているという思いがけない発見に驚きました。店内にあった三味線をお借りして日本文化体験で習ったさくらの演奏に挑戦し、店の方と交流を深めました。



日本語会話教室参加

滞在をより楽しめるように日本語会話の練習をしました。もと日本語に興味を持っている受け入れ学生が多く、自己紹介はすぐに習得しました。彼らは特に擬態語に興味を示し、日本特有の音を楽しむことができました。また、イラストを使った漢字の成り立ちについても興味津々でした。さらに、ゲームを通じて日常でよく使われる言葉を使いこなせるようになり、滞在中にたくさんの日本語をマスターすることができました。



料理交流会参加

横須賀市の派遣学生と一緒に材料を買いに行き、調理した料理を全員で試食しました。コーパスクリスティ市の学生はチレ・レジェーノ、メッドウェイ市の学生はスコーン、プレスト市の学生はガレットを作りました。派遣学生はカレーと餃子を振る舞いました。異なる国の料理に触れることで、異文化を学ぶことができました。さらに、日本の料理については英語のレシピを作成し、各国へ持ち帰りました。



日本文化体験参加

横須賀国際交流協会のボランティアに協力してもらい、着物や折り紙、大正琴、三味線などの日本文化を体験しました。初めて着付けをしてもらった振袖や袴では、帯の苦しさなどに最初は苦戦していましたが、今年は派遣学生の浴衣の着付けもボランティアの方々に協力してもらったので、最後は全員揃って和装姿の写真を沢山撮ることができました。

折り紙の体験では、自国の家族へのお土産になる作品をたくさん作りました。派遣学生もここで覚えた折り紙を派遣先のホストファミリーに教えることができました。

書道と将棋の体験では、ボランティアだけでなく派遣学生も講師役となりました。自分の名前に漢字の当て字をしてもらおうと、受け入れ学生は大喜びで筆を使い何度も練習しました。将棋では、すぐにルールを覚え、慣れてくると興奮しながら対戦に夢中になっていました。



市内見学(横須賀市自然・人文博物館 観音埼灯台 横須賀美術館 ソレイユの丘 記念艦三笠)

派遣学生は同時通訳に挑戦し、自分のバディを市内の施設に案内しました。自然・人文博物館では、茅葺き屋根など難しい用語があり、苦戦しながらもスマートフォンを使って知らない単語を調べながら英語でガイドをこなしました。受け入れ学生もその説明にとっても興味を持ち、真剣に聞いていました。天気にも恵まれ、市内観光を一日中楽しむことができました。



その他

今回、初めての試みで、「思い出の動画作成プロジェクト」と称し、受け入れ学生と派遣学生が協力して YouTube 動画を作成しました。横須賀での2週間の滞在の思い出をコーパスクリスティ市の学生と作った「コーパス組」とブレスト市とメッドウェイ市の学生と作った「ブレスト・メッドウェイ組」の2本にまとめました。滞在中に撮影した写真の中から動画に使用するものを、和気あいあいと楽しそうに選んでいました。時間は限られていましたが、全員慣れた手つきで素早く動画を完成させました。動画は、横須賀国際交流協会のYouTubeチャンネルでご覧いただけます。



コーパス組



ブレスト・メッドウェイ組

国際ユースフォーラム出席

毎年、姉妹都市や市内の青少年が集い、それぞれの都市の紹介や意見発表などを通じて交流と相互理解を深めるため、国際ユースフォーラムを開催しています。コロナ禍ではオンラインとなっていたましたが、今年は4年振りに参加者が会場に集まり、横須賀市、伊東市（メッドウェイ市の姉妹都市）、姉妹都市の交換学生や市内の高校生が英語でプレゼンテーションを行いました。

[プレゼンテーション]



ブレスト市からの受け入れ学生



メッドウェイ市からの受け入れ学生



横須賀市からの派遣学生



横須賀市からの派遣学生

[交流会]



参加者全員でじゃんけんリレー



ピンポン玉リレー

受け入れ家庭行事

家族の一員として迎え入れてくれたホストファミリーのおかげで日本の日常生活を体験することができ、横須賀での滞在がより楽しく思い出深いものになりました



浅草寺で初めてのおみくじ



ラーメン博物館



家族と夕方の散歩へ



野球観戦



ボードゲームを楽しむ



皇居外苑



城ヶ島 馬の背洞門



お好み焼き作り

(4) 受け入れ学生の感想文

コーパスクリスティ市

エンジェル・ソリス Angel SOLIS

I'm Angel J. Solis Anguiano, and I participated in the Yokuska - Corpus Christi Student Exchange in 2023. During my two weeks in Japan, I was able to experience many new things. I learned about the culture, the language, the food, and the people. I was able to make new friends and learn about the history of the country. I also gained a greater appreciation for the differences between Japanese and American cultures. Overall, my experience in Japan was life-changing and incredibly rewarding. I'm so grateful for the opportunity to have been part of the Yokuska - Corpus Christi Student Exchange. I'm also thankful to have had the chance to gain a better understanding of Japanese culture and learn more about myself during this experience. As the famous American animator John Lasseter once said: "I love Japan. I love the collision of the modern and ancient worlds coming together in that place."

【和訳】

私は横須賀市とコーパスクリスティ市の交換学生プログラムに参加しました。日本での2週間の滞在で、たくさんの新しい経験をすることができました。文化、言語、食べ物、そして人々についても学ぶことができました。新しい友達も作ることができ、日本の歴史についても知ることができました。日本とアメリカの文化の違いをより深く理解することができ、この経験は私の人生を変えるほどの価値がありました。横須賀市とコーパスクリスティ市の交換学生プログラムに参加できたことをとても嬉しく思います。また、この経験を通じて日本文化をより深く理解し、自分自身についてももっと知る機会を得たことに感謝しています。ジョン・ラセターという有名なアメリカのアニメーターが言ったように、私も「日本が大好きです。私はその場所に集まる現代と古代の世界が刺激しあっているのが大好きです。」

ポール・ミックニフ Paul McNIFF

I am Paul McNiff and I was lucky enough to be given the opportunity to participate in the Yokosuka, Japan and Corpus Christi, U.S.A. Sister City foreign exchange program. During an enjoyable two weeks in Japan, I experienced how unique the Japanese culture and people are. The exchange program was well planned and structured, it allowed for me to spend time with my kind host family, sight-see in Yokosuka, and visit other cities in Japan. Some of the events planned for me were going to a Japanese public school for two days, meeting the mayor and chairpeople, formally celebrating the 170th anniversary of the landing of Matthew Perry, visiting Kamakura, and visiting Yokohama and Japan with my host family and exchange buddy. This, and more, was all planned with plenty of time for relaxation at home and enjoying the restaurants of Yokosuka with my hosts. Part of my time in Japan was spent with the other exchange students from Yokosuka, we toured the city, went sightseeing, and ate lunches and snacks that were often paid for by the hospitable exchange program. Through out my time in Japan I experienced the friendliness

and respectfulness of the a Japanese people. This was one of the many great things that I saw in Japan. I am very grateful for the opportunity that was given to me by both the Corpus Christi Sister and Yokosuka Sister City programs. I hope that many more students will enjoy this program and country as much as I did.

【和訳】

私は幸運にも、今回の姉妹都市交換学生事業に参加することができました。この2週間の楽しい日本滞在中、日本の文化や人々がどんなに素晴らしいかを知ることができました。このプログラムは、計画がよく立てられ、親切なホストファミリーと過ごす時間や、横須賀の観光、他の都市への訪問が可能でした。予定された行事の中には、2日間の横須賀総合高等学校体験、市長と市議会議員への表敬訪問、マシュー・ペリーの上陸170周年式典への参加、鎌倉の見学、そしてホストファミリーや交換学生たちと横浜や東京への訪問もありました。また、ホストファミリーと家でリラックスしたり、横須賀のレストランを楽しむ時間もたっぷりありました。横須賀市の派遣学生と一緒に市内を見学したり観光したりするだけでなく、プログラムが提供するランチやお菓子を一緒に味わう時間もありました。日本での滞在中、日本人の親しみやすさと尊敬の念を感じることができました。これは私が日本でよく目にした素晴らしいものでした。この姉妹都市交換学生事業への参加の機会に感謝しています。多くの学生が、私と同じようにこのプログラムと日本を楽しんでくれることを願っています。

ブレスト市

クレマン・ヴィラン Clément VILLAIN

My stay in Yokosuka was the most rewarding 2 weeks of my life. Having been chosen in May to take part in this event, I can't hide the few misgivings I had at the idea of going to a country so different from our own in terms of both culture and daily life.

However, my very first day in Japan was greeted by amazing people who I have come to know so well and build brilliant friendships with. They helped me settle in and all my doubts disappeared immediately. An enormous thanks to my host family who were so hospitable and went out of their way to communicate with me and make me feel at ease. Although the programme was very full, each activity was enjoyable and taught us a little more about Japanese culture. This experience will remain engraved in my memory forever and I hope to be able to perpetuate the friendships made here with the whole group.

【和訳】

横須賀での滞在は、私の人生で最も有意義な2週間でした。5月にこのプログラムへの参加に選ばれた時、異なる文化と生活を経験することに不安を感じていました。しかし、日本での初日から素晴らしい人々に出会い、親密な関係を築くことができました。彼らはすぐに私が日本の家庭でくつろげるように手助けしてくれ、私の不安も解消されました。ホストファミリーにはおもてなしの心と良いコミュニケーションを取ってくれて、本当に感謝しています。プログラムのイベントはたくさんありましたが、それぞれが楽しく、日本の文化についてもっと学ぶことができました。この経験は私の記憶に永遠に残り、関わった皆さんとずっと友情を続けたいと思っています。

カプシーヌ・ブラン Capucine BELIN

After an exhausting 13 hour flight we finally landed at Haneda airport and that's when I realized for the first time that I was really in Japan. Until now it still looked like a distant dream. I feel like every effort I put into my candidature for the exchange has paid off in the best way possible. I was immediately immersed into Japanese culture as my host family live in a very traditional house. They were incredibly welcoming and caring and tried their best to take me everywhere I wanted to go on the weekends. Thanks to them I got to taste so many Japanese food and experience traditional Japanese lifestyle. In addition, I got the chance to witness a Japanese summer festival and was immediately invited to participate as well as contribute to the traditions. It really displayed the attitude Japanese people had towards me during this trip; very welcoming, nice and accepting.

During the week, I was with the other exchange program students, and we got to do so many incredible things. Japanese culture was always surrounding us during the activities, and I think it was for the best. The kimono experience was so much fun and made me feel like a "princess". I have had the best encounters, meeting amazing people who I have built fantastic relationships with. Everyone was so nice, and they made my two weeks even more magical. I will never be able to express even half of my gratitude to every person I met in Japan who has contributed to making this trip simply breathtaking.

Thank you, Brest, France and Yokosuka for this once in a lifetime experience.

In addition Thank you Alex and Ysabelle for helping me

【和訳】

長い13時間のフライトの後、ようやく羽田空港に到着し、私は本当に日本に来たのだと実感しました。今でもまだ遠い夢のようです。この交換学生事業への応募に費やした努力が最高の形で報われたと感じています。私のホストファミリーは、非常に伝統的な家に住んでいたため、私はすぐに日本文化にどっぷりと浸かることができました。彼らは信じられないほど私を歓迎してくれ、週末には私の行きたい場所に連れて行ってくれました。彼らのおかげで、私はたくさんの日本料理を味わい、伝統的な日本の生活スタイルを体験することができました。さらに、私は日本の夏祭りに参加する機会もいただき、伝統に触れることができました。これは、この滞在中に日本の方々が私をととても親切に受け入れてくれたことを示す象徴的な瞬間でした。平日は他の交換学生と一緒に多くの素晴らしい体験をしました。これらの体験はいつも日本の文化が満載で、最高の形でした。着物の着付け体験はとても楽しく、まるでお姫様のように感じました。私は、素晴らしい関係を築くことができた人々に会うことができました。みんなが親切で、この2週間をさらに特別なものにしてくれました。この旅を息をのむような素晴らしい経験にしてくれた、日本で出会ったすべての人々に感謝してもしきれません。

人生で一度の素晴らしい体験をありがとう...プレスト市、横須賀市。

そして、アレックスとイザベル、私を手助けしてくれて本当にありがとう。

メッドウェイ市

アレクサンダー・マリナーロ Alexander MARINHEIRO

There's only one word to describe my time in Japan and that's breathtaking.

Only two weeks in Japan, I wish it could've been longer. These two weeks have not been your average trip or holiday but one that was very educative.

I couldn't have been blessed with a more wonderful host family than the Kariya Family who have taken super care of me; settling me into Japan culture but most importantly welcoming me into their home. With this experience I've learnt so much such as taking off your shoes before you enter a house or saying "Itadakimasu" before you eat. We've shared many laughs; helping each other with Japanese and English but I've created amazing memories with the Kariyas that will stay by me forever.

The Yokosuka program has been *cho sugoi* and *yabai* which has taught me so much with sightseeing and learning the history of Japan and the sister cities (Ito and Yokosuka) that commemorates the partnership and relationship between Medway, Yokosuka and Ito.

I have been immersed in Japanese culture and tradition such as trying kimonos and playing the shamisen. Not only educative but this trip has acquainted me with some amazing people, making new friendships with two fellow students from Brest, France and the rest from Yokosuka, Japan.

Another element of the trip was Japanese food, coming to love ramen and Yakiniku. Most importantly though getting better with chopsticks.

However, I have never been more honoured and privileged then to meet the mayor of Yokosuka, chairperson and do my presentation representing Medway.

Thank you,

【和訳】

日本での私の経験を一言で表すとすれば、「息をのむ」です。たった2週間の滞在でしたが、もっともっと長くいたかったです。この2週間はただの旅行や休暇ではなく、本当に学びに満ちた貴重な時間でした。私は素晴らしいホストファミリーに恵まれました。彼らは日本の文化に馴染むようにサポートしてくれると同時に、心温まるおもてなしをしてくれました。家に入る前に靴を脱ぐことや、食事前に「いただきます」と言うことなど、多くのことを彼らから学びました。一緒に笑ったり、言語を教え合ったりすることで、私たちは永遠の思い出を作りました。この交換学生事業は、観光だけでなく、日本の歴史やメッドウェイが横須賀市と伊東市と姉妹都市提携を結んだ経緯などを学ぶ貴重な経験でした。着物を着せてもらったり、三味線を演奏したりするなど、日本の文化や伝統に没頭しました。また、フランス・ブレストから来た2人と、横須賀市の派遣学生と新しい友情を築くことができました。そして、日本料理でラーメンや焼肉が好きになりました。お箸を上手に使えるようになったことも大きな成長です。さらに、メッドウェイを代表してプレゼンテーションを行い、横須賀市長や市議会正副議長にお会いできたことは光栄で特別な思い出です。

ありがとうございました。

イザベル・ドウェン クロートン Ysabelle DOWEN-CLOUGHTON

I had a great time in Yokosuka and enjoyed the activities every day. My favourite day was when we went sightseeing around Yokosuka and visited the museum, Kannonzaki Lighthouse, Soleil Park, an art museum and Mikasa ship. I found it so interesting to learn about Yokosuka's history, as well as the rest of Japan, which explained to me the link between Yokosuka, Medway, Brest and Corpus Christi. The views from each location were absolutely breathtaking; without a doubt a once in a lifetime experience. Another highlight has been meeting so many friendly people and exploring more of Japan together every day. I have enjoyed being immersed in Japanese culture, both at home with my host family and the daily activities, such as trying kimonos and playing shamisen. Another element of the trip I have really loved has been trying Japanese food and following mealtime routines, such as using chopsticks and starting each meal with 'itadakimasu'

.I am very grateful for having had this opportunity to visit such a beautiful country and to be welcomed so warmly into the community. Thank you to all who contributed to giving me a wonderful experience in Japan.

【和訳】

私は横須賀で素晴らしい時間を過ごし、毎日の行事を楽しみました。特に博物館、観音埼灯台、ソレイユの丘、美術館、記念艦三笠に行った観光日が一番楽しかったです。横須賀の歴史や他の日本の地域について学ぶことはとても興味深く、横須賀、メッドウェイ、ブレスト、コーパスクリスティのつながりについても学びました。それぞれの場所からの景色は素晴らしいもので、間違いなく一生に一度の体験でした。もう一つのハイライトは、とても多くのフレンドリーな人々に会い、毎日一緒に日本を冒険したことです。ホストファミリーの家に泊まったり、着物を着せてもらったり、三味線を演奏したりするなど、日本の文化に楽しく没頭することができました。また、箸を使うことや食事を始める前に「いただきます」と言う日本の食事のマナーを学ぶこともできました。この美しい国を訪れ、コミュニティから温かく迎えられた機会に感謝しています。日本での素晴らしい経験を与えてくれた皆様に心から感謝します。

4 交換学生派遣事業

(1) 姉妹都市への派遣学生

4年振りに横須賀市の交換学生として、6名の高校生を姉妹都市に派遣しました。学生たちは事前研修や姉妹都市学生の受け入れ事業などで協力し合い、姉妹都市では公式行事や横須賀市の紹介、ホストファミリーとの交流、自分たちで決めた個々のテーマの調査など、横須賀市の代表として、親善大使の役割を立派に果たしてきました。



派遣学生の感想

鈴木海斗（コーパスクリスティ市派遣）

横須賀市の姉妹都市派遣事業を通じて様々なことを知ることができました。海外の文化や価値観、考え方に触れたことはかけがえのない貴重な体験でした。この事業に携わっていただいた方への感謝を忘れず、外交海運の航海士になるという夢へと邁進していきます。

細川諒子（コーパスクリスティ市派遣）

今まで触れたことのない世界に触れられた経験、この事業で出会った人達、全てが貴重で大切なものとなりました。この経験を通して得た学びを活かして、これからの学びや活動をより良いものにしていきます。

國永憩（プレスト市派遣）

姉妹都市から来た交換学生と日本で2週間、派遣先のプレストで2週間過ごした夏はとても素晴らしい経験になりました。たくさんの新しい文化に触れることができかけがえのないものになりました。今回気づくことができたことや経験を活かして今後過ごしていきたいと思います。

阿部七海（プレスト市派遣）

今回の派遣でたくさんの初めてに触れることができました。これは沢山の人の支えがあったからできたことです。最初は少し怖かったけど、フランスの人はみんな優しく、すぐに馴染むことができ、戻りたいと思える場所になりました。今回の経験を今後、社会に出た際に活かせるようになりたいです。

香川陽菜（メッドウェイ市派遣）

初めて日本の派遣学生と顔を合わせてから実際に派遣されて帰国するまでの、約3ヶ月という短い時間の中で、思いがけないところからたくさんの学びを得ることができました。時には想定外のことに苦戦したり、時には海外のイメージ通りの習慣に感動したり、常に笑顔に溢れた素敵な時間を過ごさせて頂きました。これからは、このプログラムを通して気づいた自分の“やりたいこと”を追い求め、絶えず努力したいと思います。

北川静音（メッドウェイ市派遣）

このプログラムではとても貴重な時間を過ごす事が出来ました。人と人との繋がり、文化、歴史の違いなど、他にも様々なことを知り、そして学びも得ました。短い間でしたが、今回のこの素晴らしい経験を、将来にも活かしていけたらよいなと思っています。

(2) 研修・派遣日程

月日・曜日			研修内容等
3	24	金	応募者説明会
4	16	日	第 1 次選考
5	14	日	第 2 次選考
	31	水	第 1 回研修 オリエンテーション、交換学生 O G ・ O B 体験談
6	7	水	第 2 回研修 英会話、2 分間スピーチ、調査テーマについて、 報告書用写真の撮り方
	10	土	第 3 回研修 日本文化体験教室に参加
	14	水	第 4 回研修 英会話、2 分間スピーチ、グループワーク
	21	水	第 5 回研修 英会話、日本文化体験教室で撮った写真の評価、 グループワーク
	25	日	派遣学生保護者・ホストファミリー説明会
	28	水	第 6 回研修 英会話、グループワーク、1 分間スピーチ
7	5	水	市長、市議会正副議長への出発あいさつ 第 7 回研修 最終説明会
	15	土	水師提督ペリー上陸記念式典出席 第 8 回研修 国際ユースフォーラム準備
	21	金	コーパスクリスティ市への派遣学生出発 (8 月 5 日まで)
8	8	火	国際ユースフォーラム
	11	金	ブレスト市への派遣学生出発 (8 月 26 日まで)
	12	土	メッドウェイ市への派遣学生出発 (8 月 27 日まで)
9	13	水	市長、市議会正副議長への帰国報告 第 9 回研修 報告書作成
10	4	水	第 10 回研修 報告書作成

- ・ 7 月から 8 月の姉妹都市からの交換学生受け入れ期間中は案内役として活動。
- ・ 帰国後は、横須賀市や横須賀国際交流協会の行事等にボランティアとして参加。

令和 5 年 10 月 15 日 キッズフェスティバル

令和 6 年 3 月 3 日 (予定) ジャパンフェスティバルインよこすか

(3) 研修

横須賀市の交換学生は、派遣前に8回、帰国後に1回、計9回の研修に参加しました。これにより、英会話能力だけでなく、横須賀の魅力や日本の文化、プレゼンテーションの方法、写真の撮り方、そして横須賀を代表する心構えなど、様々なスキルを学びました。調査テーマは、各自が興味を持つテーマを選び、現地のホストファミリーや関係者に連絡を取り、事前調査を行い、派遣に向けた準備をしました。また、派遣前後の研修を通じて、協力し合いながら切磋琢磨し、励ましあい、チームワークを養いました。

オリエンテーション

6名が初めて顔を合わせ、研修日程や派遣日程を確認し、交換学生の役割や現地での調査など基本的な事項について説明を受けました。その後、交換学生の先輩から直接体験談を聞く機会もあり、姉妹都市での活動内容や有意義な滞在のために必要な姿勢や考え方、持参すべき便利な物、そしてホストファミリーへおすすめのお土産など様々なアドバイスをもらいました。



日本文化体験教室参加

姉妹都市で日本の文化を紹介するため、「日本文化体験教室」に参加しました。生け花、茶道、書道、折り紙、大正琴/沖縄三線、日本舞踊などに挑戦しながら、英語での説明方法も同時に学びました。



グループワーク

毎年派遣学生は、姉妹都市から来る学生に対して英語で観光案内を行っています。グループワークでは、案内先を選び、それに沿った行程を詳細に計画し、英語への翻訳や準備を行いました。

学生たちは、活発に意見を出し合い、しっかりと日程をまとめ上げることができました。



2分間スピーチトレーニング

2分以内で伝えたいことをまとめて発表する練習をしました。時間が足りなくなったり、逆に時間が余ったりと、うまく伝えることができないこともありました。制限時間内にまとめ、人前で話す難しさを実感しながら、要点を整理して意見を述べるトレーニングを行いました。

英会話とフランス語のレッスン

横須賀市のアメリカ人国際交流員の指導のもと、全4回のレッスンを受けました。レッスンでは、自己紹介や家族、横須賀の観光スポット、日本文化の紹介、万が一の際の病状を説明するロールプレイなど、全て姉妹都市での会話を想定して取り組みました。アメリカ人ボランティアの方々も毎回数名参加してくれたので、マンツーマンでの練習ができました。最初は緊張のせいか、ほとんどが聞くだけでしたが、最後には自発的に話しかけ、笑い声が出るほど活気づいた様子を見せました。派遣学生たちは、驚くほど自分が話せることに気付き、新たな自分を発見しました。

また、フランス人の国際交流員からはフランス語の挨拶や自己紹介の方法を学びました。ブレスト市に派遣される学生以外にも、ブレスト市から来る学生の受け入れに備え、ネイティブの発音に近づけるよう練習しました。



写真の撮り方

交換学生の役割の一つは、自身の体験を多くの人に伝えることです。そのためには、報告書や写真展 で使用する写真を撮影する必要があります。

日本文化体験教室で撮影した写真を持ち寄り、参加者全員で評価し合い、わかりやすく伝わる写真を撮る方法を学びました。どの場面でどのような活動を行ったのかが分かるように撮影することや、お互いに撮り合って自分自身が写るようにすることなどを確認しました。

姉妹都市交換学生事業写真展

毎年、4月と9月に市内の商業施設等で開催しています。

出発あいさつ・帰国報告

姉妹都市への出発前に、市長や市議会の正副議長を表敬訪問し、派遣に向けた抱負や意気込みを伝える機会がありました。この機会を通じて、市を代表して派遣されることを再確認することができました。

帰国後も、姉妹都市で経験したことや、感じたこと、調査したことなどを市長や市議会の正副議長に報告するため訪問しました。市長からは「派遣前と顔つきが変わった」と言われ、今回の経験を通して自分たちが少し成長できたことを実感しました



(4) 派遣学生報告書

Corpus Christi

コーパスクリスティ市

派遣期間： 7月21日～8月4日

鈴木 海斗 神奈川県立柏陽高等学校 1年

細川 諒子 神奈川県立湘南高等学校 2年



送別パーティー

日付	活動概要
7月21日(金)	羽田発 コーパスクリスティ着
7月22日(土)	歓迎会
7月23日(日)	教会(鈴木) 野球観戦
7月24日(月)	釣り(鈴木) ビーチ
7月25日(火)	市長表敬
7月26日(水)	サン・アントニオ市観光
7月27日(木)	レキシントン博物館、テキサス州立水族館
7月28日(金)	フードバンク見学、映画鑑賞
7月29日(土)	ヒューストンに滞在：NASA 見学、誕生日会(鈴木) ダウンタウン(細川)
7月30日(日)	ヒューストンに滞在：教会、野球観戦(鈴木) 自然科学博物館(細川)
7月31日(月)	テキサスA & M大学見学
8月1日(火)	南テキサス美術館、コーパスクリスティ歴史科学館、日本食パーティー
8月2日(水)	カヤック体験、お別れ会
8月3日(木)	コーパスクリスティ発
8月4日(金)	羽田着



ミックニフ家(左から)

フランシス：とっても優しいお母さん

フランク：面白くて声の大きいお父さん

ポール：かわいくて優しいホストブラザー

(その他にも、マクニフ家には4人の兄弟と一匹の犬がいます)

第二の家族

私はこの派遣が初めての海外渡航で、緊張感と不安でいっぱいだった。しかしそれらの気持ちをすべて「希望」に変えてくれたのはミックニフ家のみんなだった。彼らは私を家族の一員として扱い、私に「この家は君のものだから自由に使っていていいよ」とまで言ってくれた。さらに彼らはポールの甥っ子シュガーの誕生日会に、嫌な顔一つせず参加させてくれた。彼らのおかげで日々、安心して楽しい生活が送れた。そんなミックニフ家には最大限の感謝を伝えたい。ありがとう。

コーパスクリスティでの生活

コーパスクリスティでの生活は驚きそのものだった。そのうちいくつかを紹介する。一つ目は、とにかく「広い」ことだ。コーパスに向かう飛行機でのこと、そこには一面に広がる小麦畑と沈みかける陽があった。その時、私は初めて「どこまで続くのだろう」と壮大な大陸に感動した。

二つ目は、自分の考えをしっかりと持っていることだ。渡航二日目、私、ポール、ポールの親友2人と庭でお喋りをしていた時、「カイトはLGBTQについてどう思う？」といきなり聞かれた。私は最初戸惑ったが、自分なりの意見を述べた。この時、一人ひとりがそれぞれの意見を持っているのは当たり前であるという点で日本との違いを感じた。

そして最後の三つめは、国家に対してのリスペクトがあるということだ。それを最も強く感じた瞬間は、野球の試合を観に行った時のことだ。試合の開始前に合衆国国歌が流れた瞬間、会場にいる人の足が止まり左胸に手を当て国旗のほうを見た。日本では国歌が流れること自体が珍しいので、最も大きい驚きの一つであった。

調査「若者の政治意識の日本とアメリカの違いについて」

調査動機

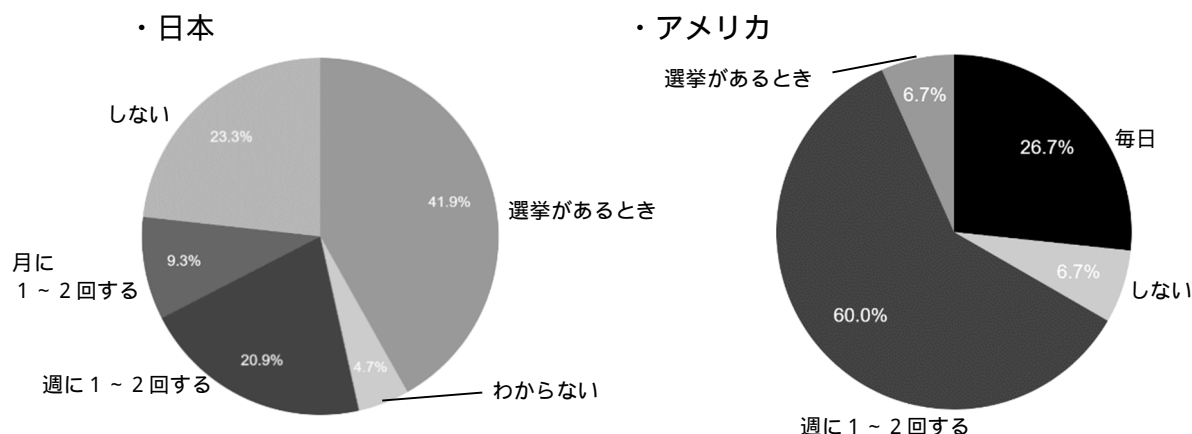
日本では近年多くのソーシャルメディアが若者の政治に関心が低いと報道しているため。また前回の参議院選挙(令和4年第26回)の18・19歳の投票率が35.42%(総務省発表)と他の年代に比べて低かったため。

調査方法

日本とアメリカの主に18歳以下の高校生や中学生などを対象にアンケートを行った。今回のアンケートでは日本人43人、アメリカ人16人にアンケートを行った。

結果

Q1 どのくらいの頻度で家族と政治についての話をしますか？



Q2 もし選挙権を持っていたら、投票に行きたいか？

	日本	アメリカ
はい	74.4%	100%
いいえ	7%	0%
わからない	18.6%	0%

この調査を通し考えたことは政治に触れる頻度の違いだ。Q1での結果で毎日、週に1~2回話すと答えた人の割合の合計は日本が20.9%、アメリカが86.7%と約67%近い差がある。そしてこの結果がQ2の結果を生み出していると考え。この質問での日本とアメリカの差は約25%とQ1の質問よりは小さい差になっているが、アメリカの結果は驚異の100%となっている。普段から家族と政治について話すことで、いざ選挙があるという時に、自分の意思をしっかりとった状態で投票ができるのだと考える。一方で日本の場合、日常的な政治についての会話が少ないことがこのQ2での約25%の差を生み出しているのだと考える。さらにアメリカのテレビでは政党についてのCMが放送されていたり、店の中に政党に関してのビラがあるなど、様々な場面で政治に触れる機会があることがQ1、Q2のような結果を生み出し、日本の若者の政治に対する意識の低下を招いているのだと考える。

考察

私はこの派遣を通して、世界は大きく、優しいものだと感じた。今回の旅では、50ある州のうちのテキサス州、196ある国の中のアメリカと、自分の知らない広い世界に何があり、この先どんなことが待っているのだろうと、胸が躍っている。そして私の拙い英語でも一生懸命理解して、様々な経験をさせてくれたミックニフ家には感謝しかない。そしてこの経験を通して、より一層英語



友達と釣り

を話せるようになりたいし、様々なことに挑戦し、失敗をたくさんしながら、夢である外航海運の航海士になりたいと改めて強く感じた。そしてミックニフ家のみんなやコーパスクリスティで出会った仲間たちと再会できることを期待している。



パディラ家（写真左から）

ジェラルド：とても優しいホストファザー

ローシー：楽しくてセンスの良いホストマザー

初めてのアメリカ

今回のコーパスクリスティへの派遣が私にとって初めてのアメリカであり、初めての海外渡航だった。私のホストファミリーはとても素晴らしい人だと、コーパスクリスティの交換学生で私のバディであるエンジェルから聞いていたので会うのを楽しみにしていた。初めて会った時にはハグで出迎えてくれ、とても嬉しかった。彼らはメキシコに縁があり、家では主にスペイン語を使って会話していると言っていた。私の滞在中はほとんど英語を使い、アメリカのことやメキシコのことを教えてくれた。2週間の中で最も嬉しかったことは、私のことを自分の娘だと言いたいと言ってくれたことだ。ホストファミリーのおかげで、私のアメリカでの2週間は素晴らしく充実したものとなった。

関わったたくさんの素晴らしい人たち

現地での活動には、フランスへ派遣されたコーパスクリスティ市の学生や、フランスからの学生も参加していた。また、エンジェルのメキシコ人の友達と休日を共に過ごす機会もあり、それぞれの国の考える「当たり前」の違いを体感することができた。彼らは、拙い英語を話す私とも積極的に会話しようとしてくれ、共に素晴らしい時間を過ごせた。私が興味を引かれた話題の一つとして、銃がある。アメリカでは銃を所有することが当たり前で、銃が自分の命を守ってくれる。車に置いていたり、携帯する人もいたりした。しかし、フランスからの学生は銃に対して護身のイメージは持っておらず、狩猟のイメージのみだと言っていた。私にとって銃は遠い存在で怖いものだが、国によって全く違うイメージを持っているのだと知った。

英語で多くの人と会話する上で、フランス語、スペイン語、インドネシア語など、様々なアクセントに触れた。全てとても個性的で自分自身のアイデンティティであるように思えた。私は自分の英語の発音に自信がなかったが、エンジェルの友達にそのことを打ち明けると発音を褒めてくれ、より会話を楽しむことができた。



今回の派遣を通して、今後

今回の派遣で、異文化の人とも積極的に関わりコミュニケーションを図ることや、言葉の壁に動じず、共に過ごす時間をできる限り楽しむことの良さ、学べることの多さを感じた。また、英語だけでなく様々な言語とその文化に触れたことで、言語学習への興味が湧いたと同時に、自分の日本についての無知さを実感し、日本について学びたいと思った。今回の体験は、私の人生にとってかけがえのないものであり、今後の自分について考えるきっかけとなった。

調査「日米の挨拶をする時の距離感の差」について

調査動機

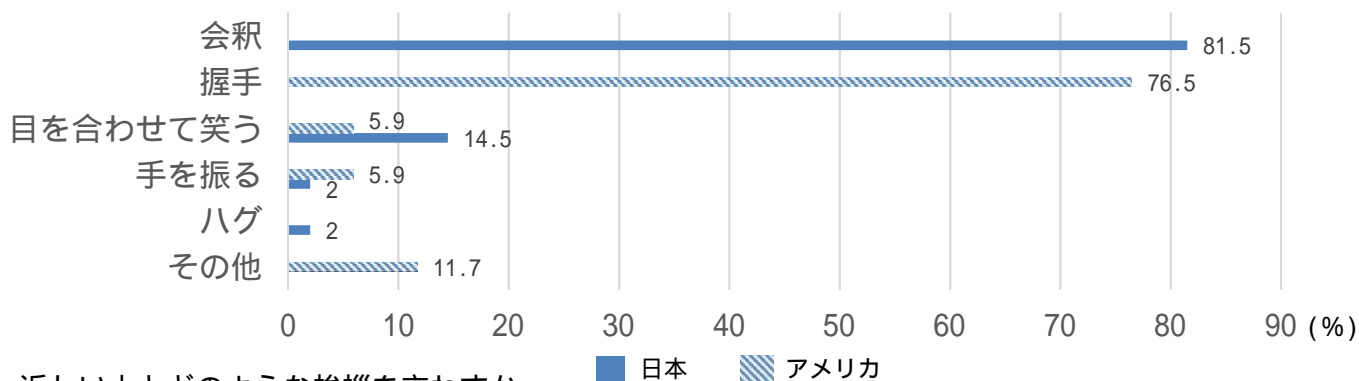
日本と海外では、挨拶をする時の身体的距離に大きな差があるとよく聞く。しかし、具体的にどのような差があるのかを聞いたことがなかったため、調べたいと思った。

調査方法

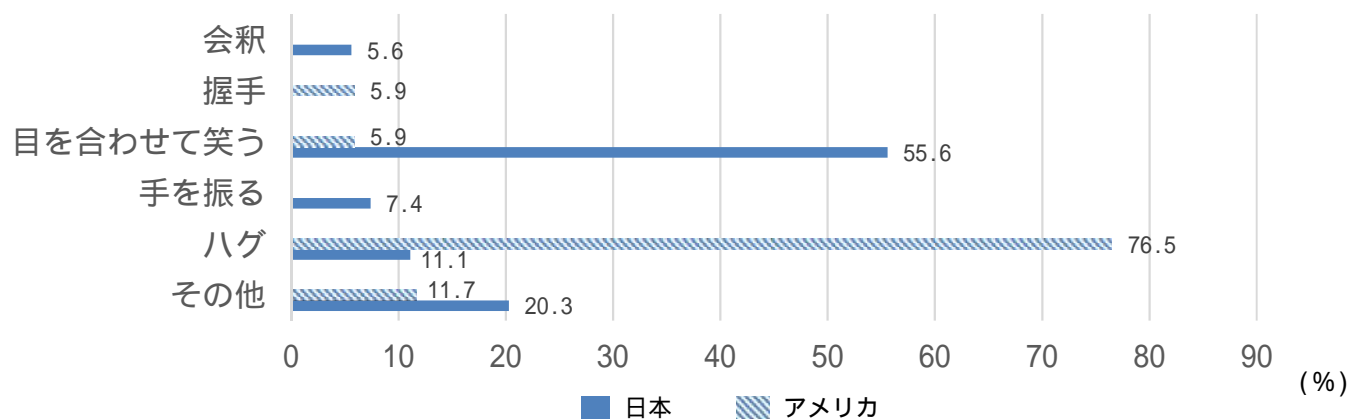
日本では私の友達 54 人、アメリカではエンジェルの友達 17 人がアンケートに回答した。

結果

初対面の人とどのような挨拶を交わすか



近い人となどのような挨拶を交わすか



相手国の挨拶についてどう思うか、どのようなイメージを持っているか

日本 アメリカ ・ノリがいい、嬉しい、楽しい

・距離感の近さが日本人には合わない

・距離感が近すぎて、気まずく感じたり怖く感じたりする

アメリカ 日本 ・かしこまっていて、相手への敬意を感じる

・相手と深い関係を築くには距離感が遠すぎる

(一部抜粋)

考察

初対面の人との挨拶と近い人との挨拶の両方において、日本では相手と距離感を取っていて、アメリカでは相手との距離感を積極的に縮めようとしている印象を受けた。また、互いの国の挨拶へ思うこととして、違和感があるという意見があった。これらのことから、それぞれ自国の国民性や古くから養ってきた感覚によって、挨拶をする時の距離感が無意識のうちに調整されていると考えた。どの国でも、その土地の感覚を大切にして自国に誇りを持っていきたい。

Brest

ブレスト市

派遣期間： 8月11日～26日

國永 憩 神奈川県立横須賀高校 1年

阿部 七海 神奈川県立横浜栄高校 2年



ブレスト市役所にて

日付	活動概要
8月11日(金)	羽田空港発 ブレスト着
8月12日(土)	クレマンの家にてランチ、ショッピング
8月13日(日)	クレマンの家にてランチ、ショッピング
8月14日(月)	森林散策
8月15日(火)	パドル(サップ)体験
8月16日(水)	副市長表敬
8月17日(木)	モーターボート体験
8月18日(金)	海岸散策、ショッピング
8月19日(土)	モンサンミッシェル観光(國永)/サンマール観光(阿部)
8月20日(日)	フェト・デ・ゴエモニエ見学(國永)/モンサンミッシェル観光(阿部)
8月21日(月)	オセアノポリス観光、カヤック体験
8月22日(火)	乗馬体験、ショッピング
8月23日(水)	アトラクションパーク
8月24日(木)	植物公園散策、グッバイミール
8月25日(金)	ブレスト発
8月26日(土)	羽田空港着

挑戦すること

國永 憩



ブラン家（写真左から）

ステファニー：明るい料理好きのホストマザー

アムール：最終日にあったホストブラザー

私

カプシーン：かわいいもの大好きな交換学生

驚きの2週間

派遣先では驚きと発見の連続だった。まず、フランスに着いて日没の遅さに驚いた。

私たちがフランスに着いたのは午後8時。日本では真っ暗だが、フランスは夕方かと思うほど明るかった。他にも、日本でスーパーマーケットを思い浮かべると、一般的に食べ物が売っていると想像するだろう。フランスのスーパーはそうではなかった。もちろん食べ物がメインだが、電化製品や本、レジャーグッズまで売られていた。一番驚いたことは食事の後「ごちそうさま」を言わないことだ。私は普段から挨拶を大事にしている。自分の中で「ごちそうさま」と言うことは大事だと思っていた。だから私は「ごちそうさま」を言い続けた。



スーパーマーケットにあったチーズ店

食事のマナー

私はフランスに行く前、カプシーンに食事のマナーについて尋ねた。

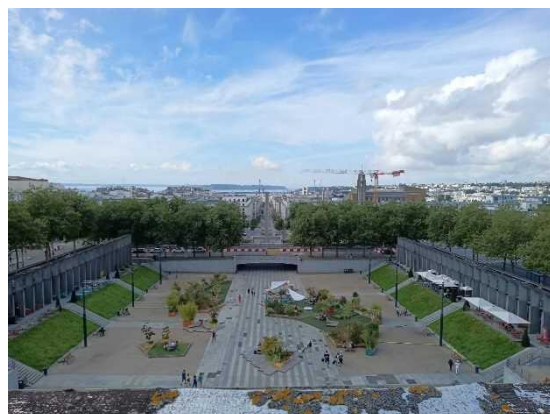
その時は「静かに食べることが一番重要だ」と言われた。他にも注意すべきマナーがあるのではないかと思ったままその場は終わったが、フランスに行ったときにもっと知ることができた。

ホストマザーによると、「フランスでは音を立てずに食べることが基本だ。ただワインは違う。ワインは音を立ててすすることが許される。」そうだ。

他にもシャンパンは誰がこぼしても怒られないが、ほかの飲み物は怒られるなどの例外があるという事実には私はとても驚いた。

挑戦の大切さ

私は今まで交換留学をするということはとても難しいと思っていた。金銭的な面もあるが、それよりもネイティブのように英語を話せなくてはならないと思っていた。姉妹都市の学生が日本に来る前はうまくコミュニケーションがとれるか不安だった。しかし、実際に会って話してみるとどれだけ文法がおかしくてもわかってもらえた。両親や友達からも「そんなに話せたっけ？」と言われるほど成長することができた。この事業を通して、挑戦の大切さを知ることができた。自分なんかにはできない、自分には向いていないと決めつける前に「やってみよう」と一步を踏みだし、私はできると思うことで自分の世界を180度変えることができた。私に素晴らしい経験をさせてくれたブレストのホストファミリーと「行っておいで」と背中を押してくれた家族に感謝したい。



ブレスト市役所からの眺め

調査「外国籍保有者に対する支援について」

調査動機

私は 2023 年 4 月から市外で外国籍の方たちに食料を配るボランティア活動をはじめた。横須賀市にも同じように外国籍の困っている方がいると思い、よりよい支援をするために知識を得たいと思ったからだ。

調査方法

横須賀市が行っている支援を調べる。

ブレスト市で行っている支援を聞き、課題や必要なことを聞く。

横須賀市で何ができるか考える。

結果

ブレスト市の職員の方に質問フォームを送り、5 つの質問に答えてもらった。横須賀市では市のホームページ閲覧とほっとかんで食料支援をしている地域福祉課にお話を伺い調査した。

質問 1 外国籍の方のために何を行っているのか。

質問 2 言語面では何を行っているのか。

質問 3 食料面では何を行っているのか。

質問 4 (1) 課題はあるのか。

質問 4 (2) その課題を解決するためにはどんなことが必要か。

	ブレスト市	横須賀市
質問 1	・行政手続き、法的手続きの支援 ・移民のサポート ・フランス語、IT などの教育 ・食料援助・デイセンターの運営 ・食料センターの運営 (すべて無償)	・外国籍市民防災啓発事業 ・外国人生活相談 (9 か国語対応) ・市の SNS にて英語で情報提供 ほか
質問 2	フランス語教育 (非識字者と学校に行かない人)	日本語会話サロン
質問 3	・炊き出し ・経済的困難の方たちのための 低価格食料店 ・フードバスケットの作成、提供 ・食料無償提供	フードドライブ
質問 4 (1)	補助金に依存している	大きなトラブルはない。
質問 4 (2)	簡単な解決方法はすぐにはわからない	—

○考察

横須賀市では、言語面では日本語会話サロンが行われていることが分かった。食料面においてはフードドライブが無償で行われていることが分かった。

ブレスト市ではフランス語教育、炊き出しやフードバスケットの提供などがおこなわれていた。横須賀市で行っているフードドライブも、ブレスト市で行っているフードバスケットや食料無料提供も同じようなものだ分かった。ほとんどの機関が「今のところ大きな問題はない」と答えたが、私は今後補助金の欠如や人員不足のような課題が出てきたときに、対策方法を考えなければならないと実感できた。また今回学んだことを生かして、よりよい支援を行うために、私に何ができるのか考える良い機会になると思った。



ヴィラン家（写真右から）

シリル：日本とF1が大好きなホストファザー

セシル：料理上手で優しいホストマザー

クレマン：日本大好きで陽気な交換学生

カミーユ：日本のアニメが好きなホストブラザー

ガブリエル：ゲーム大好きなかわいいホストブラザー

不安と優しさ

今回の派遣が自分の初めての海外渡航だった。合格の電話を貰った時、ブレスト、フランスと言われて嬉しい気持ちと大きな不安が頭の中によぎった。なぜならフランス語なんて一切話することができないからだ。英語は小学生の時から勉強していたので、腕試しができると思っていた。だが、予期していなかったフランス。フランス人は英語を話さない人がいると以前聞いたことがあったので、その為かなり心配だった。



ブレストで沢山のひとと話した。家族や友人、お店の店員、皆、普段使わない英語を頑張って話してくれたのでとても嬉しかった。お互いに伝えたいし理解したいという優しさがあったから成り立った関係だったのだ。もちろん言語以外にも文化の差は存在しており、最初の三日間はかなり困惑していた。生活リズムの違い、特に困惑したのが食事だ。日本人は何かをする時、一つの物事に集中するので、食事の時の会話は、食事の前後に楽しむことが多い。だがフランスの食事は食べることがメインではなく、家族や友人との会話がメインだった。その為、食事には長い時間をかけていた。僕は食べるのが早かったので慣れるまで時間がかかってしまった。しかし、家族や友人が優しく説明してくれて一週間が経つ頃には慣れることができた。また、日本人に比べてフランス人は時間の流れがゆっくりで、遅刻はしても仕方がないというスタンスで驚いた。

日本の浸透



フランスで驚いたことの一つに日本の人気が高いことがあげられる。空港の売店やショッピングモールの至る所で日本のアニメや漫画のグッズが販売されていた。他には、交換学生やその兄弟の部屋には日本のアニメや漫画のグッズ、漫画本があった。日本では見たことのないグッズもあり、驚いた。また、アニメなどの影響を受けて日本食に興味があり、日本語の勉強をしている人もいた。日本食レストランがブレストにあり、そこで食事をした時にホストファミリーに箸の使い方を教えたなら、熱心に聞いて練習してくれた。

調査「住む町でのサッカーの人気」について

調査動機 日本のプロサッカーチームはチームの本拠地の町おこしの中心となっている。フランスではサッカーがどのように市民の生活に関わっているのか知りたいと思った。

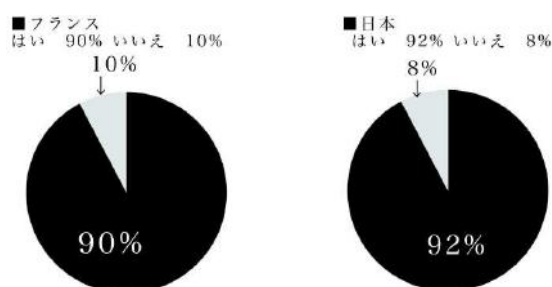
調査方法 日本人 50 人とフランス人 20 人にアンケートとインタビューをした。

結果

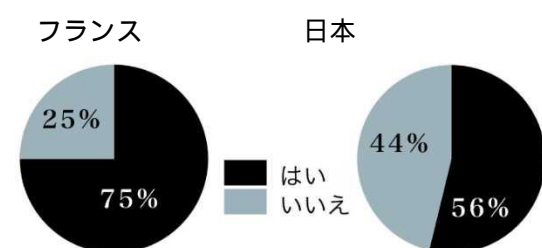
サッカーを習っていた経験はあるか

	フランス人割合	日本人割合
ある	55%	42%
ない	45%	58%

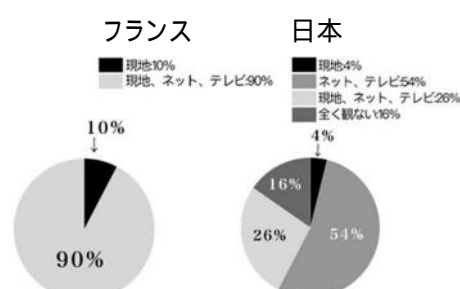
地元のプロチームを知っているか



試合がある日、街は盛り上がっていると感じるか



試合を観るか



考察

はサッカーが人気の国は競技人口割合も多いと考えたからだ。結果はフランスが 13%上回っていた。これは事前の予想と結果が一致していた。また、フランスで実際にサッカーをして、インタビューをしたが、サッカーを習わずとも、遊ぶ時はサッカーをすることが多い。未経験の人でも上手だったことから、割合以上にサッカーをプレイする人は多いことが分かった。

では今回のテーマである地元チーム(日本では神奈川県のプロチームを指す)の知名度についての質問だ。これはどちらも 90%、92%と高い割合でチームのことを知っているという結果が出た。この結果はかなり意外だった。ブレストでは街中にチームの広告があり、高い割合になることは予想していたが、神奈川のチームはブレストに比べて広告などの知るきっかけが少ないと思っていたからだ。

海外のチームのファンは街ごと盛り上がるというイメージがあったのでこの質問を作った。日本では基本、ファンだけが盛り上がるイメージがあった。アンケートにはその結果が顕著に表れており、実際に試合がある日、ブレストの町はかなり盛り上がっていた。サッカーを見るためではなく、お祭りに参加する感覚だ。

日本のサッカー観戦はチームのファンばかりが観戦するという意見があり、基本はテレビやインターネットでの視聴が多くを占めており、全く見ないという人もいるのに対して、フランスではアンケートを取った中ではサッカーを見ない人はいないという結果になった。でも記した様にスタジアムで観戦することはお祭りに参加するような感覚だということが分かった。

これらの質問から日本よりもフランスはサッカーが生活に根付いているということが分かった。また、フランスでは現在ラグビーワールドカップが開催されており、スポーツが好きな人やそうでない人も盛り上がっている。日本でもサッカーのみならずスポーツ全体がもっと国民の生活と近くなると良いなと思った。この調査を通して、サッカーを習うことは遊びの延長線上にあることが分かり、地元の人や国民が常にサッカーと近い所にいるということが、フランスサッカーの強さや盛り上がりに影響しているのだと考えた。将来はスポーツに関わる仕事がしたいので、今回の経験を活かしたい。

Medway

メッドウェイ市

派遣期間： 8月12日～27日

香川 陽菜 横浜市立南高等学校 1年

北川 静音 鎌倉女学院高等学校 2年



お別れバーベキュー

日付	活動概要
8月12日(土)	羽田空港発 メッドウェイ着
8月13日(日)	ショッピング
8月14日(月)	市長表敬訪問
8月15日(火)	ザ・ヒストリック・ドックヤード観光、歓迎パーティー
8月16日(水)	ターナー・コンテンポラリー(美術館)見学、海観光
8月17日(木)	パディの学校訪問
8月18日(金)	ウィンターデイルチーズ工場見学、ナショナル・トラスト アイタム・モート見学
8月19日(土)	ロンドン観光
8月20日(日)	グリニッジ天文台観光、ボディアム城観光
8月21日(月)	ジスアートオブマイン(T-シャツ作り)
8月22日(火)	カヤック体験
8月23日(水)	メッドウェイ市内観光
8月24日(木)	ロンドン観光
8月25日(金)	お別れバーベキュー
8月26日(土)	メッドウェイ発
8月27日(日)	羽田空港着

気づかされたこと

香川 陽菜



マリンネイロ家（写真左から）

ヴァネッサ：面白いことが大好きなホストマザー

ドノヴァン：料理が上手なホストファザー

アレックス：ひょうきんかつ勤勉な交換学生

レオニア：ダンスが得意なホストシスター

文化の違い

アレックスが日本に来て、彼とホストファミリーは南アフリカ出身だと聞いたとき、全く想像のできない南アフリカの文化を自分が受け入れられるのかどうか不安だった。この交換学生事業は私にとって初めての派遣であり初めての海外渡航だったため、海外という未知かつ憧れの世界に興奮しつつ、心に余裕があるとは言えない状態でイギリスに渡った。しかしこれらはすべて杞憂に終わった。私が到着した夜、アレックスは「わからないことがあったらなんでも聞いてね。」と言いながら家を案内してくれた。そして次の日の朝、ホストマザーは「あなたは私たちの家族なのだから、したいことを好きなときに、遠慮せずしてくれていいからね。でも、私たちは日本の文化をよく知らないから、もし失礼なことをしてしまっていたらごめんね。」と言われた。その言葉で一気に緊張が解け、「お互い様ですし、それも良い学びになります！」と笑顔で答えることができた。彼女たち自身も5年前に南アフリカから引っ越してきたという理由もあってか、文化の違いを尊重してくれる思慮深いホストファミリーだった。

日本に対する興味



バス車内でも日本語を勉強

横須賀市の姉妹都市であるメッドウェイは静岡県伊東市とも姉妹都市提携を結んでおり、横須賀市と伊東市からそれぞれ日本人とそのバディ2組ずつ、計8人がこのプログラムに参加している。そしてイギリス出身の4人全員が日本語を話すのがとても上手なことに驚いた。私がどこで日本語を勉強しているのか聞くと、スマホの語学学習アプリを使用していると答えたり、中にはおよそ1年間勉強し続けていると答えたりする学生もいた。また、ホストシスターは日本食の大ファンらしく、彼女もいつか日本に来てお寿司を食べてみたい、と話してくれた。様々な場面で日本が愛されていることを知り、温かい気持ちになった。

交換学生事業の意義

このプログラムを通して、イギリスではもちろん多くの新しい発見があったが、それと同時に日本のことについてもよく知るきっかけとなった。アレックスに説明をするときに、パンフレットや看板、ネットサイトを見ながら「そうなんだ、初めて知った！」と思うことが多々あった。さらに、普段まったく気にしないことでも、好奇心旺盛なアレックスに鋭い質問をされて「これをこんな角度から見るんだ！」と驚かされることもあった。意外にも、日本のことについて姉妹都市からの交換学生から学んだり、気づかされたりすることが多かった。

調査「日本とイギリスの自然災害とその対策」について

調査動機

地震大国である日本では、2021年にマグニチュード3以上の地震が4,672回あったが、イギリ

スでは地震は非常に少なく4回のみだったことを知った。そこで、自然災害の頻度と対策の相関に興味を持ったため、この調査テーマを設定した。

調査方法

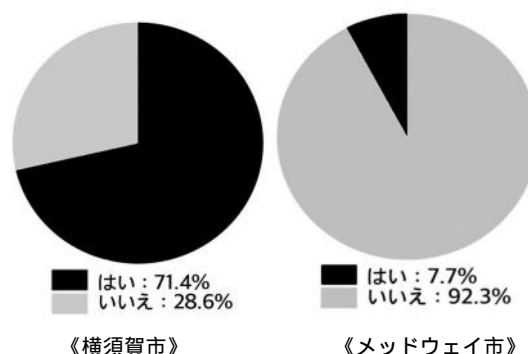
日本の高校生42名にアンケートを1種類、メッドウェイ市では13名に、日本の高校生と同じものと、日本人向けのアンケートの結果を踏まえたものの2種類のアンケートを実施した。

結果

【1】 自 国 の 自 然 災 害 に つ い て (日 本 ・ イ ギ リ ス)
 最も身近だと思う自然災害は何か
 日本 : 地震(71.4%),大雨・暴風・台風(28.6%)
 イギリス:大雨・暴風・台風(92.3%),熱波(7.7%)

どのような対策をしているか/なぜ対策をしていないのか

	横須賀市	メッドウェイ市
対策内容	防災リュックの用意(23) ハザードマップの確認(12) 災害発生時の家族との集合場所の確認(12)	家での洪水対策(1)
対策しない理由	どう対策すればよいかわからない(6)	対策をするほどの頻度・規模ではない(10)



【2】日本で最も身近な自然災害である「地震」について(イギリスのみ)

地震はイギリスで身近かどうか...いいえ(100%)

地震対策を行っているかどうか...いいえ(100%)

なぜ対策をしていないのか...対策の必要性を感じないから(100%)

考察

イギリスではそもそも自然災害自体が稀であり、対策を行っている人はほとんどいなかった。地震に関しては一人も対策を行っておらず驚いた。

アンケート【1】において、日本で対策をしていない人に多かった理由が「どう対策すればよいかわからない」であったが、自然災害の多い日本においてこれは危険だと感じた。今までの自然災害のデータを活用し、具体的な対策方法を広めていくことの必要性を感じた。日本で自然災害に対して対策を行っている人が多かったのは、学校や職場での避難訓練など、様々な場所で防災についての教育がなされているから、というのも一つの理由だが、日本では地域によって起こりやすい自然災害に大きく差がある。そのため、特に災害が多い地域では、転居などで違う地域に越してきた人のために防災マニュアルなどがあると、誰一人取り残さない社会を作ることができると考えた。

自然災害は避けられないものであるから、暮らしを守るために一人ひとりの対策と周囲との協力が欠かせない。この報告書が、少しでも防災に興味を持ち、考えるきっかけになったら嬉しく思う。



クロートン家（写真右から）

イザベル：ユーモアたっぷりの交換学生

カレン：優しくジョーク好きのホストマザー

スティーブ：いつも笑顔のホストファザー

家族の時間

私はこの家庭で過ごしていて、とてもよい習慣だと思ったことがある。それは家族と過ごす時間だ。私のホストファミリーたちはとにかく家族の時間を大切にしていたように感じる。よく、リビングのソファやお庭のテーブルなどでまったりとしながら団楽をしていた。日本でもそのような時間はあるが、彼らはそれ以上に団楽に多くの時間を充てており、とても家族主義である。その中に身を置くことで、聞くだけではわからない文化の一端に触れることが出来た。

イギリスの中の日本

イギリスでは様々なところに連れていってもらい、多くの体験をすることができた。その中で、私が少し面白いと思ったのは、イギリスの街中で日本語のお店を見つけたことだ。お寿司、おにぎりなどや、アニメDVDを売っているお店などがあつた。お寿司屋などは、ショッピングモールの真ん中で、周りから見えるような面白い構造をしていて、イギリス人のユーモアを感じた。私はちょっとした日本への郷愁を感じるとともに、イギリス人の他の国の文化を受け入れる、多様性の部分を肌身で感じる事が出来た。



イギリスの多様性

イギリスでは、自分が想像していたよりも様々な人種の方をみる機会があつた。日本では観光地以外ではあまり見る事のない光景だ。これも、イギリスの多様性の一つかと驚いたのを覚えている。ある日、市内観光をしているとき、知らない方たちに日本語で話しかけられることがあつた。その方たちは大学で日本語の勉強をしているようで、日本人の自分たちをみて話しかけてくれた。英語が飛び交う中で響いた母国語に驚くとともに、日本も世界の一部である、ということ意識させられた。

調査「地域社会への考え方」について

調査動機

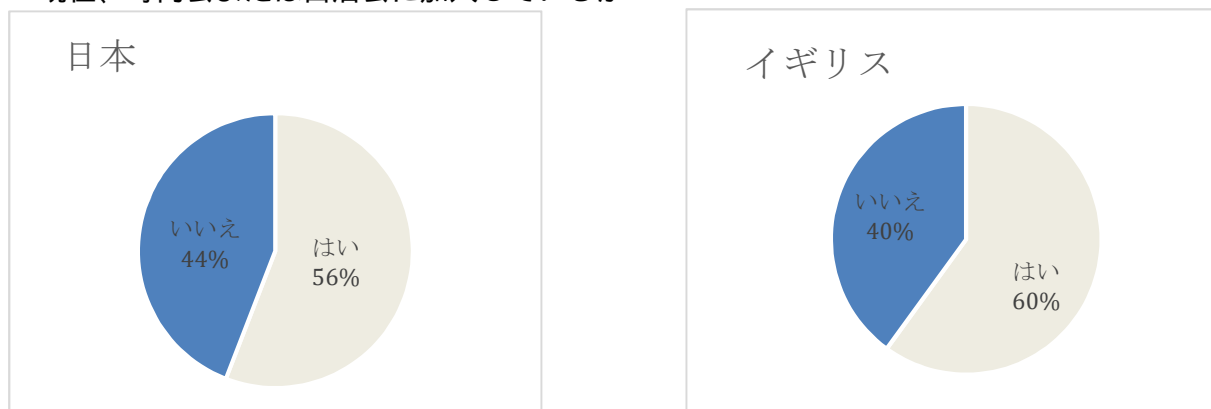
私は幼いころより地域の自治会の行事に参加しており、様々なことをその地域社会のコミュニティの中で学んできた。しかし、現在日本の地域社会は活性化しているとは言えない。その為、他の国の地域社会を学ぶというのは、日本の地域社会を活性化させることに繋がるのではないかと考えたから。

調査方法

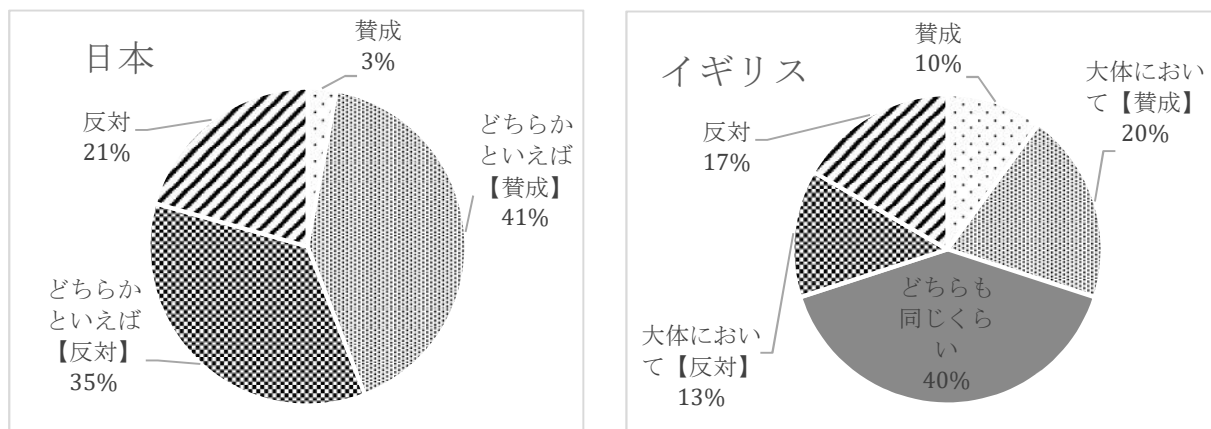
日本人 34 人、イギリス人 30 人にアンケートを実施した。

結果

現在、町内会または自治会に加入しているか



町内会、または自治会への強制参加についてどう思うか



考察

から、日本もイギリスも自治会のようなコミュニティに属している人の割合はあまり変わらないことがわかる。しかし、イギリスでは教会のコミュニティなど、地域のコミュニティの場となるところがあるので、一概に同じような状況であるとは言えない。イギリスではイギリス国教会が、フードバンクや子供グループなどの、地域社会を支援する活動を行っているということが分かった。日本も、自治会などにこだわらず、違うコミュニティの場をもっと作っていくことも、一つの手段となるのではないかと考えた。

も、日本とイギリスの考え方の割合はあまり変わらず、賛成や反対意見は少なかった。

自治会や、町内会に求める役割は何かという質問に対して、「地域交流の場」、「治安維持」、「災害時の相互扶助」などの意見がどちらの国でも多かったため、日本もイギリスも、地域のコミュニティについては基本的に似たような考え方であることがわかる。

日本もイギリスも、このようなアンケートをとってみると、共通部分が多いように感じられるが、少子高齢化が進み、働く世代が減少している日本と、移民を受け入れているイギリスでは、やはり社会構造が根本的に違う。伝統的なことや、ルールを重んじる日本の自治体、町内会は他者を受け入れにくい面がある。地域を発展させていくためにはもっと世界のことを知り、他者を受け入れることが必要だと感じた。今回、私は交換学生たちを地元のお祭りに招待し、伝統を伝えることができた。今回の経験を通して私は地元だけでなく、多様性を持ち、コミュニティの輪を広げていくことは可能だと思った。この想いを胸に、横須賀の魅力を発信していきたい。

令和 5 年度姉妹都市交換学生事業報告書

発行年月 令和 6 年（2024 年）2 月発行

発 行 横須賀市

編 集 横須賀市市長室国際交流・基地政策課

NPO 法人横須賀国際交流協会